

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2021-41987

(P2021-41987A)

(43) 公開日 令和3年3月18日(2021.3.18)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
B 6 5 D 6/18 (2006.01)	B 6 5 D 6/18 D	3 E 0 6 1
B 6 5 D 25/04 (2006.01)	B 6 5 D 25/04 Z	3 E 0 6 2

審査請求 未請求 請求項の数 6 O L (全 12 頁)

(21) 出願番号	特願2019-167479 (P2019-167479)	(71) 出願人	591006944 三甲株式会社 岐阜県瑞穂市本田 4 7 4 番地の 1
(22) 出願日	令和1年9月13日 (2019.9.13)	(74) 代理人	110000338 特許業務法人HARAKENZO WORLD PATENT & TRADEMARK
		(72) 発明者	藪田 貴志 岐阜県瑞穂市本田 4 7 4 番地の 1 三甲株式会社内
		(72) 発明者	和田 吉弘 岐阜県瑞穂市本田 4 7 4 番地の 1 三甲株式会社内
		F ターム (参考)	3E061 AA02 AB09 AB12 AD04 CA06 CA15 CA22 DA06 DB11 最終頁に続く

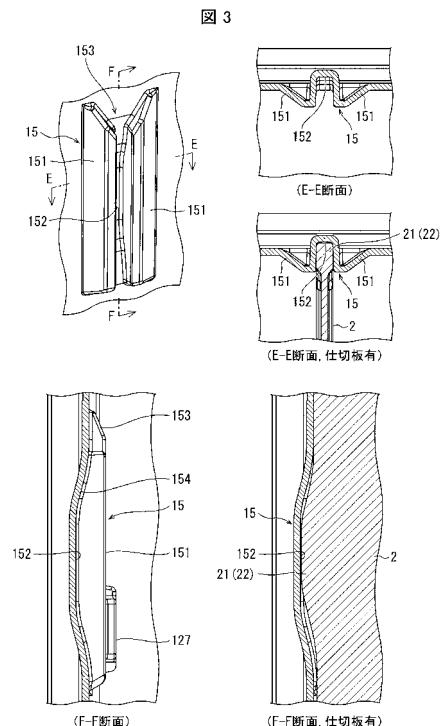
(54) 【発明の名称】 容器

(57) 【要約】

【課題】仕切板保持部の凸部の突出長を抑制し、かつ仕切板の保持強度を高められるようにする。

【解決手段】容器は仕切板保持部(15)を有し、仕切板保持部(15)は、左右の凸部(151)、および左右の凸部(151)の間の、側壁部の内面から外面へ貫通または非貫通の凹部(152)を有し、左右の凸部(151)の相対する一対の内面および凹部(152)の相対する一対の内面によって仕切板を保持可能である。

【選択図】 図 3



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

平面視略矩形の底壁部と、
前記底壁部の各側辺部からそれぞれ上方に延びる側壁部とを備える容器において、
前記側壁部のうちの相対する少なくとも一対には仕切板保持部が形成され、
前記仕切板保持部は、前記側壁部の内面から前記容器の内方へ突出する左右の凸部、および前記左右の凸部の間に形成され、前記側壁部の内面から外面へ貫通または非貫通の凹部を有し、前記左右の凸部の相対する一対の内面および前記凹部の相対する一対の内面によって仕切板を保持可能であることを特徴とする容器。

【請求項 2】

前記凹部は、前記凹部の上方への前記仕切板の移動を規制する規制壁を上端部に有し、
前記凸部は上端部が前記凹部の上端部よりも上方に位置し、前記凸部の前記凹部の上端部よりも上の部分は、対向する前記凸部同士の間隔が上端部へ向って広がった形状の装着案内部となっていることを特徴とする請求項 1 に記載の容器。

【請求項 3】

前記側壁部の上辺部に沿って設けられた矩形枠状の上枠部を前記側壁部の上に備え、
前記側壁部は、相対する一対の第 1 側壁部および相対する一対の第 2 側壁部を含み、
前記第 1 側壁部は、下辺部が底壁部の側辺部に対して回動可能に連結された下側壁部と、上辺部が前記上枠部に対して回動可能に連結された上側壁部とを有し、
前記第 2 側壁部は、上辺部が前記上枠部に対して回動可能に連結されており、
箱型とした組立状態と、前記組立状態から、前記第 1 側壁部の前記下側壁部、前記第 1 側壁部の前記上側壁部および前記第 2 側壁部を前記容器の内側に回動変位させて折り畳んだ折畳状態との状態変更が可能であり、
前記仕切板保持部は前記第 1 側壁部に備えられ、
前記凸部は、前記第 2 側壁部の回動領域以外の領域に設けられていることを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の容器。

【請求項 4】

前記側壁部の上辺部に沿って設けられた矩形枠状の上枠部を前記側壁部の上に備え、
前記側壁部は、相対する一対の第 1 側壁部および相対する一対の第 2 側壁部を含み、
前記第 1 側壁部は、下辺部が底壁部の側辺部に対して回動可能に連結された下側壁部と、上辺部が前記上枠部に対して回動可能に連結された上側壁部とを有し、
前記第 2 側壁部は、上辺部が前記上枠部に対して回動可能に連結されており、
箱型とした組立状態と、前記組立状態から、前記第 1 側壁部の前記下側壁部、前記第 1 側壁部の前記上側壁部および前記第 2 側壁部を前記容器の内側に回動変位させて折り畳んだ折畳状態との状態変更が可能であり、
前記仕切板保持部は前記第 1 側壁部に備えられ、
前記第 2 側壁部は、回動した場合に前記凸部との干渉を回避する凸部回避部を備えていることを特徴とする請求項 1 または 2 に記載の容器。

【請求項 5】

前記凸部は、前記容器が前記折畳状態である場合に、折り畳まれた前記一対の第 2 側壁部の下辺部の間に位置することを特徴とする請求項 3 または 4 に記載の容器。

【請求項 6】

前記下側壁部は、左右両側の側部に、前記組立状態の場合に前記第 2 側壁部方向へ突出し、前記容器を組立状態とした場合に前記第 2 側壁部の外面と当接または近接する受壁部と、前記組立状態の場合に前記受壁部の先端部から前記第 1 側壁部の横幅方向中央部に向かって突出する係止突起とを有し、
前記第 2 側壁部は、前記組立状態の場合に、前記係止突起が挿入される被係止部を有し、
前記仕切板保持部は前記下側壁部に形成され、
前記下側壁部の前記仕切板保持部の前記凸部の突出長は、前記下側壁部の内面から前記

係止突起の先端までの長さ以下であることを特徴とする請求項 3 から 5 のいずれか 1 項に記載の容器。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、側壁部の内面に仕切板保持部を有する容器に関する。

【背景技術】

【0002】

従来、側壁部の内面に仕切板保持部を有する容器が市販されている。特許文献 1 に開示されている容器は、矩形の底壁部および 4 つの側壁部を有し、各側壁部の内面に仕切板保持部を有する。この仕切板保持部は、容器の内方に突出し、上下方向に延びる 2 本の凸部（凸条）、および 2 本の凸部の間の縦溝を有する。縦溝は、2 本の凸部によって形成され、仕切板を保持するようになっている。

10

【先行技術文献】

【特許文献】

【0003】

【特許文献 1】実開平 07-022935 号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0004】

20

しかしながら、上記従来の構成では、次のような問題がある。すなわち、仕切板保持部による仕切板の保持強度を高めるためには、容器内方への凸部の突出長を長くして仕切板のかかり量を増やす必要がある。しかしながら、このようにすれば、凸部が内容物の邪魔になる、凸部が内容物を傷つける、凸部の存在により容器の実質的な容量が減少する等の問題を生じる。

【0005】

本発明の一態様は、仕切板保持部の凸部の突出長を抑制し、かつ仕切板の保持強度を高めることができる容器を実現することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0006】

30

上記の課題を解決するために、本発明の一態様に係る容器は、平面視略矩形の底壁部と、前記底壁部の各側辺部からそれぞれ上方に延びる側壁部とを備える容器において、前記側壁部のうちの相対する少なくとも一対には仕切板保持部が形成され、前記仕切板保持部は、前記側壁部の内面から容器の内方へ突出する左右の凸部、および前記左右の凸部の間に形成され、前記側壁部の内面から外面へ貫通または非貫通の凹部を有し、前記左右の凸部の相対する一対の内面および前記凹部の相対する一対の内面によって仕切板を保持可能である。

【0007】

上記の容器において、前記凹部は、前記凹部の上方への前記仕切板の移動を規制する規制壁を上端部に有し、前記凸部は上端部が前記凹部の上端部よりも上方に位置し、前記凸部の前記凹部の上端部よりも上の部分は、対向する前記凸部同士の間隔が上端部へ向かって広がった形状の装着案内部となっている構成としてもよい。なお、上記の容器は、樹脂製の容器であり、前記仕切板保持部は、容器の上下方向の中央位置より上方位置に形成されている構成としてもよい。

40

【0008】

上記の容器は、前記側壁部の上辺部に沿って設けられた矩形枠状の上枠部を前記側壁部の上に備え、前記側壁部は、相対する一対の第 1 側壁部および相対する一対の第 2 側壁部を含み、前記第 1 側壁部は、下辺部が底壁部の側辺部に対して回動可能に連結された下側壁部と、上辺部が前記上枠部に対して回動可能に連結された上側壁部とを有し、前記第 2 側壁部は、上辺部が前記上枠部に対して回動可能に連結されており、箱型とした組立状態

50

と、前記組立状態から、前記第1側壁部の前記下側壁部、前記第1側壁部の前記上側壁部および前記第2側壁部を前記容器の内側に回動変位させて折り畳んだ折畳状態との状態変更が可能であり、前記仕切板保持部は前記第1側壁部に備えられ、前記凸部は、前記第2側壁部の回動領域以外の領域に設けられている構成としてもよい。

【0009】

上記の容器は、前記側壁部の上辺部に沿って設けられた矩形枠状の上枠部を前記側壁部の上に備え、前記側壁部は、相対する一对の第1側壁部および相対する一对の第2側壁部を含み、前記第1側壁部は、下辺部が底壁部の側辺部に対して回動可能に連結された下側壁部と、上辺部が前記上枠部に対して回動可能に連結された上側壁部とを有し、前記第2側壁部は、上辺部が前記上枠部に対して回動可能に連結されており、箱型とした組立状態と、前記組立状態から、前記第1側壁部の前記下側壁部、前記第1側壁部の前記上側壁部および前記第2側壁部を前記容器の内側に回動変位させて折り畳んだ折畳状態との状態変更が可能であり、前記仕切板保持部は前記第1側壁部に備えられ、前記第2側壁部は、回動した場合に前記凸部との干渉を回避する凸部回避部を備えている構成としてもよい。

【0010】

上記の容器において、前記凸部は、容器が前記折畳状態である場合に、折り畳まれた前記一对の第2側壁部の下辺部の間に位置する構成としてもよい。

【0011】

上記の容器において、前記下側壁部は、左右両側の側部に、前記組立状態の場合に前記第2側壁部方向へ突出し、容器を組立状態とした場合に前記第2側壁部の外面と当接または近接する受壁部と、前記組立状態の場合に前記受壁部の先端部から前記第1側壁部の横幅方向中央部に向かって突出する係止突起とを有し、前記第2側壁部は、前記組立状態の場合に、前記係止突起が挿入される被係止部を有し、前記仕切板保持部は前記下側壁部に形成され、前記下側壁部の前記仕切板保持部の前記凸部の突出長は、前記下側壁部の内面から前記係止突起の先端までの長さ以下である構成としてもよい。

【発明の効果】

【0012】

本発明の一態様によれば、仕切板保持部の凸部の突出長を抑制し、かつ仕切板の保持強度を高めることができる。

【図面の簡単な説明】

【0013】

【図1】本発明の実施形態の容器である組立状態の折畳コンテナに仕切板を装着した状態の斜視図、および前記折畳コンテナから仕切板を抜脱した状態の斜視図である。

【図2】図1に示した折畳コンテナの折り畳み途中の状態を示す斜視図、および前記折畳コンテナの折畳状態を示す斜視図である。

【図3】図1に示した仕切板保持部の斜視図、前記斜視図におけるE-E断面図（仕切板が無の状態）、前記斜視図におけるE-E断面図（仕切板が有の状態）、前記斜視図におけるF-F断面図（仕切板が無の状態）、および前記斜視図におけるF-F断面図（仕切板が有の状態）である。

【図4】図1におけるA-A断面図およびB-B断面図である。

【図5】図1におけるC-C断面図である。

【図6】図2に示した折畳コンテナの折畳状態におけるD-D断面図である。

【図7】図1に示した仕切板の斜視図、および仕切板の左右の一方の側部の拡大図である。

【図8】上段の図は、本発明の他の実施形態の容器である組立状態の折畳コンテナの図4の右側の図に対応する位置の縦断面、下段の左側の図は、この折畳コンテナの正面の模式図および正面の縦断面の模式図、下段の右側の図は、第2側壁部の正面の模式図である。

【発明を実施するための形態】

【0014】

〔実施形態1〕

以下、本発明の一実施形態について、詳細に説明する。図 1 は、本実施形態の容器である組立状態の折畳コンテナ 1 に仕切板 2 を装着した状態の斜視図、および折畳コンテナ 1 から仕切板 2 を抜脱した状態の斜視図である。図 2 は、図 1 に示した折畳コンテナ 1 の折り畳み途中の状態を示す斜視図、および折畳コンテナ 1 の折り畳みを完了した折畳状態を示す斜視図である。

【0015】

(折畳コンテナ 1 の概要)

図 1 に示すように、折畳コンテナ 1 は、上面が開口した直方体形状であり、仕切板 2 を装着することにより内部を区画可能である。また、折畳コンテナ 1 は、組立状態かつ仕切板 2 を抜脱した状態から、図 2 に示すように、折畳状態に折り畳み可能である。折畳コンテナ 1 および仕切板 2 は、例えばポリプロピレンからなる樹脂製である。

10

【0016】

折畳コンテナ 1 は、底壁部 11、第 1 側壁部 12、第 2 側壁部 13 および上枠部 14 を備えている。底壁部 11 は、平面視略矩形であり、折畳コンテナ 1 の底部に位置する。第 1 側壁部 12 および第 2 側壁部 13 は、相対する一対が底壁部 11 の側辺部からそれぞれ上方に延びている。第 1 側壁部 12 は、折畳コンテナ 1 の長手方向に沿う側壁部であり、第 2 側壁部 13 は折畳コンテナ 1 の幅方向に沿う側壁部である。上枠部 14 は、矩形枠状であり、第 1 側壁部 12 および第 2 側壁部 13 の上辺部に沿って設けられている。

【0017】

(上枠部 14)

20

図 1 に示すように、上枠部 14 は、一対の長辺部 141 および一対の短辺部 142 を有する。長辺部 141 における仕切板 2 の装着領域の近辺部分は、仕切板 2 を折畳コンテナ 1 の上方から折畳コンテナ 1 の内部へ装着可能なように、第 1 側壁部 12 の内面よりも折畳コンテナ 1 の内方へ張り出さないように形成されている。また、上枠部 14 は、長辺部 141 と短辺部 142 とが交わるコーナー部に、コーナー凹部 143 を有する。コーナー凹部 143 には、折畳コンテナ 1 を積み上げたときに、上側の折畳コンテナ 1 の下面のコーナー凸部（図示せず）が嵌合される。

【0018】

(第 1 側壁部 12)

30

図 1 に示すように、第 1 側壁部 12 は、本実施形態において、上下方向の略中央で上第 1 側壁部（上側壁部）121 と下第 1 側壁部（下側壁部）122 とに 2 分割されている。なお、第 1 側壁部 12 は、3 分割以上に分割されていてもよい。

【0019】

上第 1 側壁部 121 は上枠部 14 に上ヒンジ部 123 により回動可能に連結され、下第 1 側壁部 122 は底壁部 11 に下ヒンジ部 124 により回動可能に連結されている。上第 1 側壁部 121 と下第 1 側壁部 122 とは、中間ヒンジ部 125 により回動可能に連結されている。

【0020】

上第 1 側壁部 121 および下第 1 側壁部 122 には、例えば長手方向の中央部に、仕切板保持部 15 が形成されている。仕切板保持部 15 は、仕切板 2 を保持可能なように、相対する左右の上第 1 側壁部 121、および相対する左右の下第 1 側壁部 122 において、折畳コンテナ 1 を横切る同一平面内に位置している。なお、仕切板保持部 15 は、上第 1 側壁部 121 と下第 1 側壁部 122 の少なくとも一方に形成されていればよい。さらに、仕切板保持部 15 は、一対の第 2 側壁部 13 にも形成されていてもよい。

40

【0021】

図 2 および後述の図 5 に示すように、本実施形態において、上第 1 側壁部 121 および下第 1 側壁部 122 は、左右両側の側部に、受壁部 126 および係止突起 127 を有している。受壁部 126 は、第 2 側壁部 13 方向へ突出し、折畳コンテナ 1 を組立状態とした場合に第 2 側壁部 13 の外面と当接または近接する。上第 1 側壁部 121 の係止突起 127 は、上第 1 側壁部 121 の受壁部 126 の先端部から上第 1 側壁部 121 の横幅方向中

50

央部に向って突出している。同様に、下第１側壁部１２２の係止突起１２７は、下第１側壁部１２２の受壁部１２６の先端部から下第１側壁部１２２の横幅方向中央部に向って突出している。なお、受壁部１２６および係止突起１２７は、下第１側壁部１２２のみが有していてもよい。

【００２２】

（仕切板保持部１５）

図３は、図１に示した仕切板保持部１５の斜視図、前記斜視図におけるＥ－Ｅ断面図（仕切板２が無の状態）、前記斜視図におけるＥ－Ｅ断面図（仕切板２が有の状態）、前記斜視図におけるＦ－Ｆ断面図（仕切板２が無の状態）、および前記斜視図におけるＦ－Ｆ断面図（仕切板２が有の状態）である。

10

【００２３】

図３に示すように、仕切板保持部１５は、上下方向に延びる左右の凸部１５１、およびこれら凸部１５１の間の凹部１５２を有している。凸部１５１は、上第１側壁部１２１および下第１側壁部１２２の内面から折畳コンテナ１の内方へ突出し、内方への突出長が凹部１５２から左右へ離れるにしたがって漸次短くなっている。

【００２４】

凸部１５１は上端部が凹部１５２の上端部よりも上方に位置し、凸部１５１の凹部１５２の上端部よりも上の部分は、対向する凸部１５１同士の間隔が上端部へ向かって漸次広がった形状の装着案内部１５３となっている。これにより、折畳コンテナ１の上方から仕切板２を仕切板保持部１５に装着する場合、仕切板２は装着案内部１５３に案内されて容易に仕切板保持部１５に装着することができる。

20

【００２５】

凹部１５２は、折畳コンテナ１の内面から外面へ向かって凹状となっている。図１に示すように、凹部１５２の形成位置の折畳コンテナ１の外面は、膨出した状態となっている。凹部１５２は、凹部１５２の上方への仕切板２の移動を規制する規制壁１５４を上端部に有している。本実施形態において、規制壁１５４は、凹部１５２の上下方向中央部の最も深い部分に向って緩やかに傾斜している。なお、本実施形態において、凹部１５２は上第１側壁部１２１および下第１側壁部１２２を非貫通であるが、貫通していてもよい。

【００２６】

仕切板保持部１５は、上記の構成により、左右の凸部１５１の相対する一对の内面および凹部１５２の相対する一对の内面によって仕切板２を保持可能である。したがって、折畳コンテナ１は、収容物等への影響を極力抑えつつ、仕切板２の保持量（かかり量）を増やすことができる。これにより、折畳コンテナ１は、仕切板保持部１５の凸部１５１の突出長を抑制し、かつ仕切板２の保持強度を高めることができる。すなわち、折畳コンテナ１は、内容物への傷つけを防止し、内容量の減少を抑えつつ仕切板２の取付強度を高めることができる。

30

【００２７】

（第２側壁部１３）

図４は、図１におけるＡ－Ａ断面図およびＢ－Ｂ断面図である。図５は、図１におけるＣ－Ｃ断面図である。なお、図５では、下第１側壁部１２２の受壁部１２６および係止突起１２７とそれら受壁部１２６および係止突起１２７に対応する被係止部１３２を示している。

40

【００２８】

図４に示すように、第２側壁部１３は上枠部１４に上ヒンジ部１３１により回動可能に連結されている。これにより、折畳コンテナ１を折畳状態とする場合に、第２側壁部１３を回動させ、図２に示すように、左右の第２側壁部１３を水平状態に配置できるようになっている。

【００２９】

図４に示すように、仕切板保持部１５の凸部１５１は、第２側壁部１３の回動領域以外の領域に設けられている。したがって、折畳コンテナ１は、折畳状態とする場合に、第２

50

側壁部 1 3 が凸部 1 5 1 と干渉することが無く、円滑に折畳状態とすることができる。

【0030】

図 5 に示すように、第 2 側壁部 1 3 は、上第 1 側壁部 1 2 1 および下第 1 側壁部 1 2 2 の受壁部 1 2 6 および係止突起 1 2 7 に対応して、被係止部 1 3 2 を有している。被係止部 1 3 2 は、第 2 側壁部 1 3 の内面側から外面方向へ受壁部 1 2 6 および係止突起 1 2 7 と係合するように突出している。したがって、折畳コンテナ 1 が組立状態の場合、被係止部 1 3 2 は受壁部 1 2 6 および係止突起 1 2 7 と係合する。これにより、折畳コンテナ 1 は、組立状態を安定に維持することができる。なお、第 2 側壁部 1 3 は、下第 1 側壁部 1 2 2 のみが受壁部 1 2 6 および係止突起 1 2 7 を有している場合、それら受壁部 1 2 6 および係止突起 1 2 7 のみに対応して被係止部 1 3 2 を有していればよい。

10

【0031】

(折畳状態での左右の第 2 側壁部 1 3 と仕切板保持部 1 5 の凸部 1 5 1 との関係)

図 6 は、図 2 に示した折畳コンテナ 1 の折畳状態における D-D 断面図である。図 6 に示すように、折畳コンテナ 1 の折畳状態において、仕切板保持部 1 5 の凸部 1 5 1 は、左右の第 2 側壁部 1 3 の下辺部の間に位置する。したがって、折畳コンテナ 1 の折畳状態において、第 2 側壁部 1 3 と仕切板保持部 1 5 の凸部 1 5 1 とは干渉することがない。これにより、折畳コンテナ 1 は、折畳状態において、高さが高くなって嵩張る事態を回避することができる。

【0032】

(折畳状態での仕切板保持部 1 5 の凸部 1 5 1 と係止突起 1 2 7 との関係)

20

下第 1 側壁部 1 2 2 が受壁部 1 2 6 および係止突起 1 2 7 を有する場合、これら受壁部 1 2 6 および係止突起 1 2 7 に対応して、第 2 側壁部 1 3 は被係止部 1 3 2 を有する。この場合、図 6 に示すように、折畳コンテナ 1 の折畳状態において、下第 1 側壁部 1 2 2 の仕切板保持部 1 5 の凸部 1 5 1 の突出長は、下第 1 側壁部 1 2 2 の内面から係止突起 1 2 7 の先端までの長さ以下である。したがって、折畳コンテナ 1 の折畳状態において、仕切板保持部 1 5 の凸部 1 5 1 が係止突起 1 2 7 よりも長く突出して底壁部 1 1 に当接することがない。これにより、折畳コンテナ 1 は、折畳状態において、高さが高くなって嵩張る事態を回避することができる。

【0033】

(底壁部 1 1)

30

図 1 に示すように、底壁部 1 1 は、上面に 2 個の仕切板保持部 1 6 を有している。仕切板保持部 1 6 は、仕切板 2 を保持可能なように、折畳コンテナ 1 を横切り、仕切板保持部 1 5 が存在する平面と同一平面内に位置している。

【0034】

(仕切板 2)

図 7 は、図 1 に示した仕切板 2 の斜視図、および仕切板 2 の左右の一方の側部の拡大図である。

【0035】

図 7 に示すように、仕切板 2 は、横方向へ突出する上保持凸部 2 1 および下保持凸部 2 2 を左右の側縁部に有し、下方へ突出する 2 個の下保持凸部 2 3 を下縁部に有している。上保持凸部 2 1 は、上第 1 側壁部 1 2 1 の仕切板保持部 1 5 に対応し、下保持凸部 2 2 は、下第 1 側壁部 1 2 2 の仕切板保持部 1 5 に対応し、下保持凸部 2 3 は、底壁部 1 1 の仕切板保持部 1 6 に対応する。下保持凸部 2 2 の突出長は、上保持凸部 2 1 よりも短くなっている。これにより、仕切板 2 を折畳コンテナ 1 の上方から下方へ移動させて仕切板保持部 1 5 に装着する場合、仕切板 2 の移動を円滑に行うことができ、仕切板保持部 1 5 すなわち折畳コンテナ 1 に対して仕切板 2 を容易に装着することができる。

40

【0036】

(折畳コンテナ 1 の折り畳み)

折畳コンテナ 1 を折り畳む場合には、仕切板 2 を抜脱し、組立状態から、図 2 に示すように、一対の第 2 側壁部 1 3 を内側に（回動変位させて）押し込み、上枠部 1 4 内に折り

50

畳む。次に、第１側壁部１２を内側に（回動変位させて）二つ折りに折り畳む。これにより、折畳コンテナ１は折畳状態となる。

【００３７】

（折畳コンテナ１の組み立て）

折畳コンテナ１を組み立てる場合には、折畳状態から、上枠部１４を底壁部１１に対して上方に持ち上げる。これにより、一对の第１側壁部１２の上第１側壁部１２１および下第１側壁部１２２が開き、一对の第２側壁部１３が自重で下方に回動して一对の第１側壁部１２の間に入り込む。次に、一对の第２側壁部１３を内側から押して下方まで回動させると、上第１側壁部１２１および下第１側壁部１２２の受壁部１２６および係止突起１２７に第２側壁部１３の被係止部１３２が係合する。これにより、折畳コンテナ１は組立状態となる。つまり、折畳コンテナ（容器）１は、組立状態と折畳状態との状態変更が可能である。

10

【００３８】

（折畳コンテナ１への仕切板２の装着）

仕切板２は、組立状態の折畳コンテナ１に対して、必要に応じて装着することができる。仕切板２を装着する場合には、折畳コンテナ１の上方から仕切板２を折畳コンテナ１の内部に挿入し、上第１側壁部１２１および下第１側壁部１２２の仕切板保持部１５に仕切板２の上保持凸部２１および下保持凸部２２を装着し、底壁部１１の仕切板保持部１６に仕切板２の下保持凸部２３を装着する。これにより、上第１側壁部１２１および下第１側壁部１２２の仕切板保持部１５、ならびに底壁部１１の仕切板保持部１６によって仕切板２を保持する。この場合、仕切板２の下方への移動、すなわち仕切板保持部１５の凹部１５２に対する仕切板２の上保持凸部２１および下保持凸部２２の移動は、仕切板保持部１５の装着案内部１５３によって案内される。

20

【００３９】

〔実施形態２〕

本発明の他の実施形態について以下に説明する。図８は、本実施形態の容器である組立状態の折畳コンテナ３の図４に対応する位置の縦断面、折畳コンテナ３の正面および正面の縦断面の模式図、ならびに第２側壁部３３の正面の模式図である。

【００４０】

図８に示すように、折畳コンテナ３は、折畳コンテナ１の第２側壁部１３に代えて第２側壁部３３を備えている。第２側壁部３３は、切欠き状の凸部回避部３３１を有する。凸部回避部３３１は、例えば下第１側壁部１２２に設けられた仕切板保持部１５の凸部１５１が第２側壁部３３の回動領域内に存在する場合、回動する第２側壁部３３と凸部１５１との干渉を回避する位置に形成される。これにより、折畳コンテナ３は、第２側壁部３３が凸部１５１と干渉することなく、円滑に折畳状態とすることができる。

30

【００４１】

なお、折畳コンテナ３を組立状態とした場合に、凸部回避部３３１によって第２側壁部３３に生じる孔は、第２側壁部３３の面方向への受壁部１２６の突出長を長くすることにより、受壁部１２６によって塞ぐことができる。折畳コンテナ３のその他の構成は、折畳コンテナ１と同様である。

40

【００４２】

また、折畳コンテナ３においても、例えば上第１側壁部１２１の長手方向の中央部に仕切板保持部１５が形成されている場合、その仕切板保持部１５の凸部１５１は、図６に示した折畳コンテナ１の場合と同様、折畳状態において左右の第２側壁部３３の下辺部の間に位置する。この場合にも、折畳コンテナ３は、折畳状態において、高さが高くなって嵩張る事態を回避することができる。

【００４３】

本発明は上述した各実施形態に限定されるものではなく、請求項に示した範囲で種々の変更が可能であり、異なる実施形態にそれぞれ開示された技術的手段を適宜組み合わせて得られる実施形態についても本発明の技術的範囲に含まれる。

50

【符号の説明】

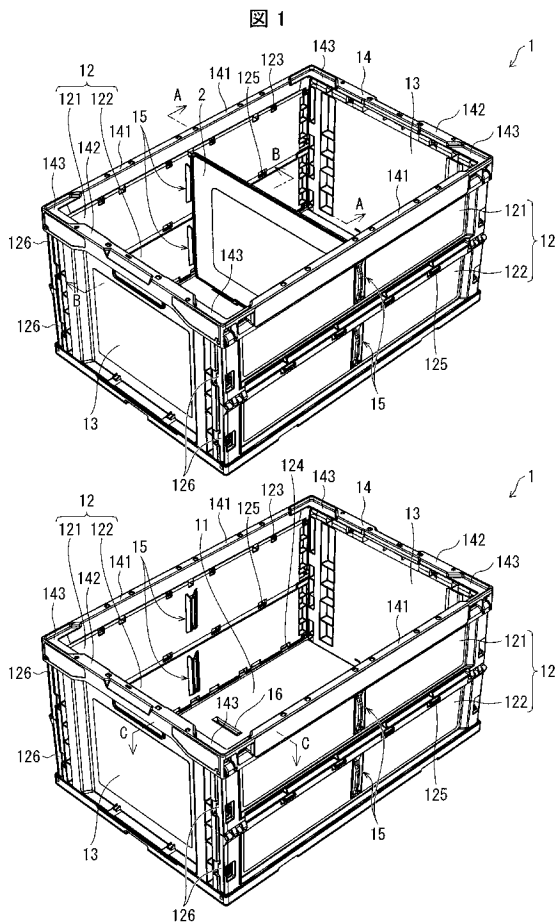
【0044】

- 1, 3 折畳コンテナ (容器)
 2 仕切板
 11 底壁部
 12 第1側壁部
 13, 33 第2側壁部
 14 上枠部
 15, 16 仕切板保持部
 21 上保持凸部
 22 下保持凸部
 23 下保持凸部
 121 上第1側壁部 (上側壁部)
 122 下第1側壁部 (下側壁部)
 126 受壁部
 127 係止突起
 132 被係止部
 151 凸部
 152 凹部
 153 装着案内部
 154 規制壁
 331 凸部回避部

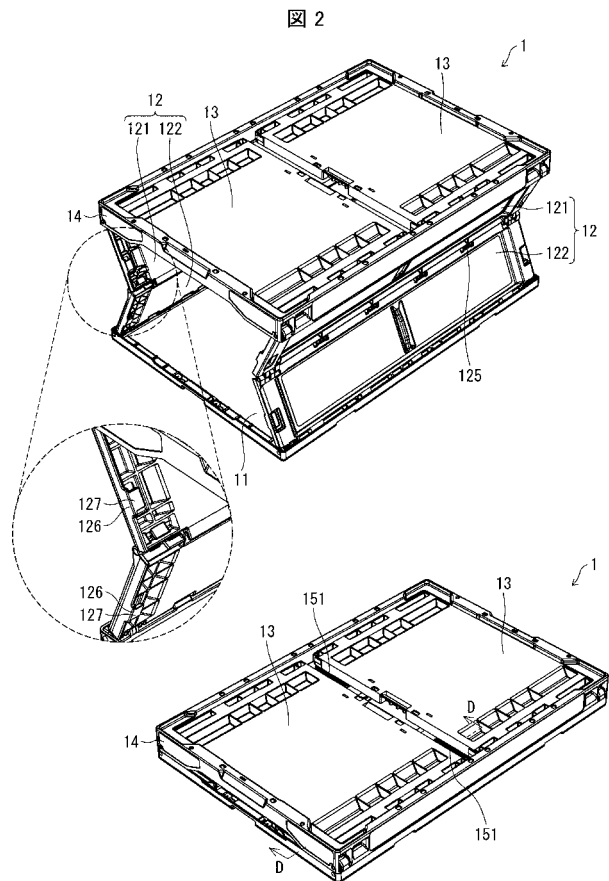
10

20

【図1】

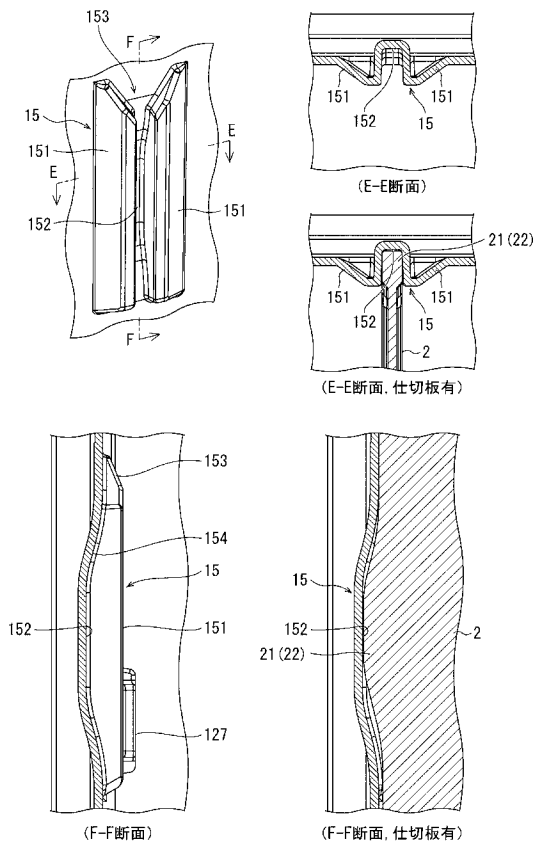


【図2】



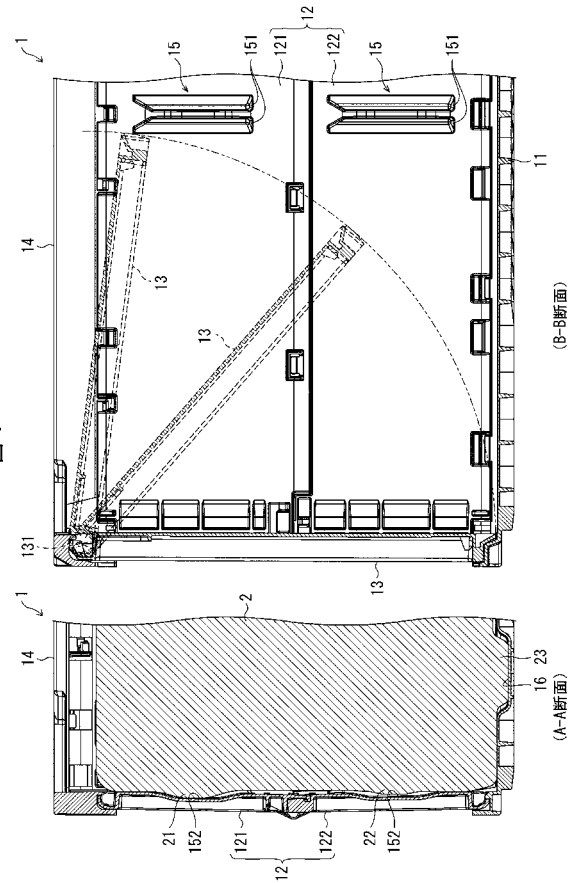
【図 3】

図 3



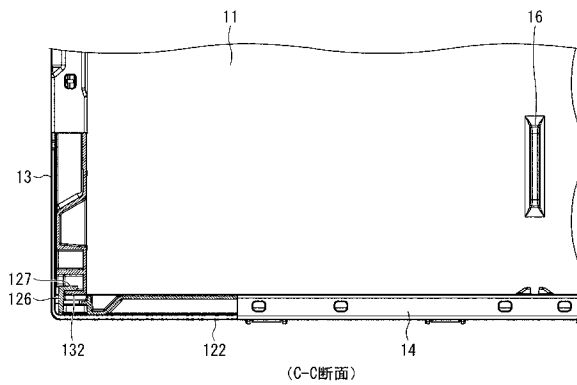
【図 4】

図 4



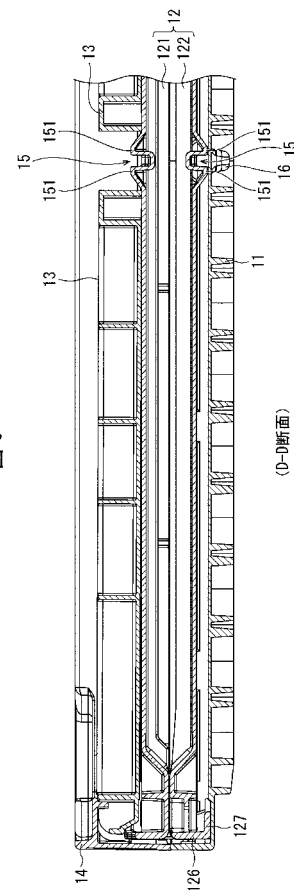
【図 5】

図 5

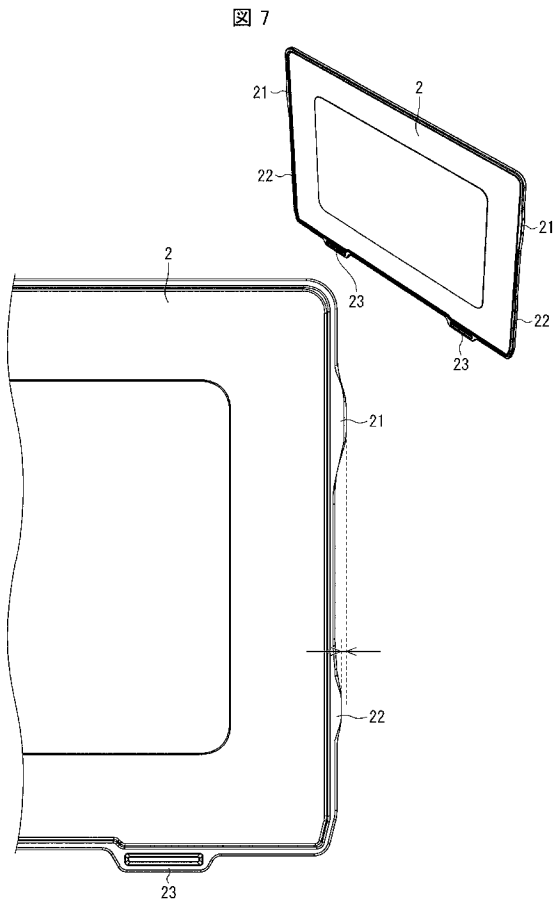


【図 6】

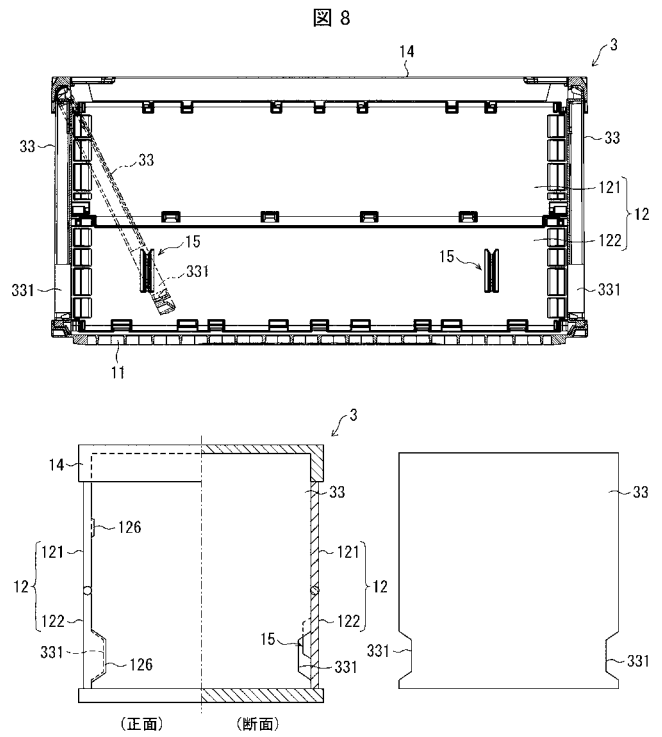
図 6



【図 7】



【図 8】



フロントページの続き

Fターム(参考) 3E062 AA01 AB07 AC02 EA02 EB03 EC01 EC08